

東京工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	Introduction to Corpus Linguistics(教養ゼミⅠ)	
科目基礎情報							
科目番号	0100			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	後期:2		
教科書/教材	参考図書:「ベーシックコーパス言語学」(ひつじ書房) その他、授業内で適宜紹介する。						
担当教員	関根 紳太郎						
到達目標							
コーパス言語学を活用しながら、言葉によって再現される<世界>のあらゆる事象・現象を解析することで、日本語・日本文化と英語・英語圏文化との違いが“見える”ようになり、日本語・日本文化と英語・英語圏文化が“わかる”ようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	コーパスを活用しながら、日英の文化的差異を数値的に検証できる			コーパスを活用しながら、日英の文化的差異を数値的にある程度説明できる。		コーパスを適正に活用できず、日英の文化的差異を数値的に評価できない。	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	言葉とは、ヒトの思考、信念、価値観等、認知した<世界>のカタチと考えられ、コーパスとは、そうした言葉のデータベース、つまり、言葉によって再現される<世界>を有限化したものと言える。本クラスでは、コーパス言語学的手法を活用しながら、そうした言葉によって再現される<世界>のあらゆる事象・現象を解析することを目的とする。						
授業の進め方・方法	まず、コーパスの作成方法について学ぶ。次に、コーパス専用検索ソフト[コンコルダンス]の扱い方を習得する。さらに、適宜統計学にも触れながら、コーパスを活用した言語解析について考える。また、用例[記事内容等]分析についても検討する。最後に、設定した研究テーマについて、作成した自家製コーパスを用いながら口頭発表をする。						
注意点	履修条件 Reading、Grammar 等の英語基礎科目を受講していること。 ある程度パソコンと統計処理に興味があることが望ましい。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Introduction to Corpus Linguistics①		コーパスの概要をつかむ。		
		2週	Introduction to Corpus Linguistics②		コーパスの概要と関連事項を理解する。		
		3週	自家製コーパスの作成①		研究テーマに関するコーパスデータ資料を収集する。		
		4週	自家製コーパスの作成②		研究テーマに関するコーパスデータ資料を収集する。		
		5週	自家製コーパスの作成③		研究テーマに関するコーパスデータ資料を収集する。		
		6週	自家製コーパスの作成④		研究テーマに関するコーパスデータ資料を収集する。		
		7週	自家製コーパスの作成⑤		研究テーマに関するコーパスデータ資料を収集する。		
		8週	コーパスデータの仕上げおよび担当教員モデル発表		コーパスデータを完成させる。モデル発表を理解する。		
	4thQ	9週	発表原案作成① (テーマの確定)		発表原案を作成する。		
		10週	発表原案作成② (途中でも担当教員へ提出)		発表原案を完成する。		
		11週	口頭発表: 機械工学科		コーパスを活用しながら、日英の文化的差異を数値的に検証できる。もしくは、他者の発表のねらいを理解する。		
		12週	口頭発表: 電気・電子工学科		コーパスを活用しながら、日英の文化的差異を数値的に検証できる。もしくは、他者の発表のねらいを理解する。		
		13週	口頭発表: 情報・物質工学科		コーパスを活用しながら、日英の文化的差異を数値的に検証できる。もしくは、他者の発表のねらいを理解する。		
		14週	口頭発表: 予備日① (授業予備日)		コーパスを活用しながら、日英の文化的差異を数値的に検証できる。もしくは、他者の発表のねらいを理解する。		
		15週	口頭発表: 予備日②		コーパスを活用しながら、日英の文化的差異を数値的に検証できる。もしくは、他者の発表のねらいを理解する。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	前1,前4,前7,前8,前9,前12,前13,前14,前15	
				相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	前4,前7,前8,前9,前12,前13,前14,前15	

				集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	前3,前4,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	前3,前4,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	3	前2,前3,前4,前5,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3	前2,前3,前4,前7,前8,前9,前10,前12,前13,前14,前15
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3	前2,前3,前4,前7,前8,前9,前10,前12,前13,前14,前15
				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3	前2,前3,前4,前7,前8,前9,前10,前12,前13,前14,前15
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3	前2,前3,前4,前7,前8,前9,前10,前12,前13,前14,前15
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3	前2,前3,前4,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	前2,前3,前4,前7,前8,前9,前10,前12,前13,前14,前15
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3	前2,前3,前4,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15
				目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3	前2,前3,前4,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	100	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	100	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0